

## 第12回

## 住まいと

## コミュニティ

## づくり

## 活動助成



活動地域：新潟県村上市

概要：

歴史が色濃く残る村上市は、「町屋の人形さま巡り」や「町屋の屏風まつり」、「黒塀プロジェクト」の活動によってソフト面の高い評価を受けるようになりましたが、数多く残る町屋は、必ずしも魅力的とはいえない外観のものが少なくありません。しかし、内部構造はかつての町屋の形態を保持しているものが多く、当団体は、こうした財産を活用するために、歴史的考証に従い外観整備を行い、市民が誇れる、城下町としての魅力あふれる町並みを再生し、交流人口の増加などを図っていくための活動を行っています。具体的には、市民基金を設立し、年間1000万円（10年間で1億円）の寄付を募り、町屋の外観再生に補助金（上限80万円：費用の60%の補助）を出し、町屋の再生を行っていくものです。助成対象活動では、外観再生第1号を完成させるとともに、寄付を集める活動を展開しました。昔ながらの技術を受け継ぐ「村上大工」を中心とした建築士、建具士などの集団「村上大工 匠の会」が結成され、外観再生を担当していきます。

〔むらかみ町屋再生プロジェクト〕

- ・ 代表者：吉川 真嗣
- ・ 連絡担当者：吉川 真嗣
- ・ 連絡先：〒958-0842 新潟県村上市大町1-20
- ・ TEL：0254-53-2213
- ・ FAX：0254-52-7436
- ・ E-mail：info@mmsp.info
- ・ ホームページ：http://www.mmspinfo/

## 1 団体の目的と経緯

目的：

町屋の外観整備再生のための市民基金の設立

経緯：

「町屋の公開」「黒塀の復活」等の活動を推進しているメンバーが、町並みの外観と内観が調和したまちづくりを市民自らの手でやっていこうと、町屋の外観整備のためのシステムを確立し、会を設立した。

村上是新潟県下で最も古い城下町であり、歴史の跡が多く残る貴重な町であるにもかかわらず、その価値は認識されておらず、旧町人町に至っては都市計画により道路拡幅を伴う大規模な近代化の話が持ち上がっていた。町を近代化し綺麗にすることが本当に村上のためになるのかと疑問を抱いたことから、1998年に反対の署名運動を行うが、町の人の猛反発にあい、あえなく断念。その時進むべき方向を切り換えた。反対するという否定的なやり方ではなく、実際に町屋を生かして町を活性化させ、町の人々が喜び納得する形を示し人の気持ちを変えようと考えた。古い町屋があるからこそこの町は賑わい繁栄するという姿を示すことで、壊すのではなく、これを残し活かしていくべきだと市民の考えが変わり、その結果、都市計画までも変えることができるのではないかと考えたからだ。

1998年夏、14店舗で「町屋の公開」を始める。2000年3月、60軒の町屋の中で家々に伝わる人形さま約4000体を公開する「町屋の人形さま巡り」を企画。話題を呼び初年度から1ヶ月の間に3万人もの人が町を訪れた。翌年2001年9月、同じ形式で村上伝統の屏風を展示する「町屋の屏風まつり」を開催、これまた大成功となった。「人形さま巡り」も「屏風まつり」も全国区のイベントと評価され現在15万人を越える人が訪れている。3月と9月の2ヶ月間、村上には大勢の人が訪れ町は活気に満ち溢れる。それまで町屋を単なる古い家としか思っていなかった町の



黒塀化が進められている町並み

人だったが、確実に町屋に対する意識が変化していった。

残念ながら意識の変化がないのは行政で、町に大きな変化が起こっているのに道路拡幅は更に進み、複数の町屋がそのため壊されてしまった。「行政が壊すのなら市民は作ってみせる」と2002年に市民の力で昔の黒塀を復活させようと「黒塀プロジェクト」を立ち上げた。市内にある城下町の風情を感じさせる安善小路があるが昔あった黒塀はブロック塀になっていた。ブロック塀を壊すのではなく、ブロックの上から板をはり黒く塗るという手法で行うのだが、「黒塀一枚1000円運動」により資金を集め、子供からお年寄りまで金槌をもつての黒塀作りが開始された。市内小町の安善小路に現在150mの黒塀ができています。町屋を活かした「町おこし」から、実際に市民が町をつくるという「町づくり」へと発展していった。

これら行政に頼らぬ村上市民の活動と成果は一時間のテレビ番組化され全国放送されたり、「人形さま巡り」や「屏風まつり」を実施した「村上町屋商人会」が「地域づくり総務大臣表彰」を受けるといった形で具現化された。さらに一連の活動の中心的人物が、「観光カリスマ」(国土交通省による「観光カリスマ百選」)に認定されるといううれしい評価をいただくまでに至った。衰退の一途をたどっていた村上の町にとって希望の光が差し込み、長い間低迷してきた中心市街地が元気を取り戻しつつある。ただこの活気も「人形さま巡り」と「屏風まつり」のある3月と9月の2ヶ月間に集中しており一年を通しての活性化にはもう一步の努力が必要である。その一步とは町屋の外観を村上らしい魅力ある町屋に再生していくことにあると考え「町屋の外観再生プロジェクト」の構想が動き出した。

## 2 活動の内容 - 町屋の外観再生プロジェクト



再生前の店の外観  
外観からは内部の赴が感じられない

町屋とは旧町人町の家屋で、「うなぎの寝床」と称される、間口が狭く奥行きが長い伝統的建造物のことである。家の一步奥に入ると囲炉裏や梁、大黒柱に神棚、仏間があり、豪快な吹き抜けの造りがタイムスリップしたような印象を与える素晴らしい町屋も、道路に面した外観は近代化の波を受けアーケードやサッシ、トタンなどで覆われてしまっているのが現状。町屋の中に入れば江戸や明治時代そのままであるが、外からは普通の町にしか見えない。この外観を昔ながらの格子や壁、硝子戸に変え町屋の景観を整えることができれば村上の町は内外ともに充実し、その魅力は格段に高くなる。これにより村上は一年を通して楽しめる町となり、活気を取り戻すことは明らか。また改修は外観だけなので低経費で済み、一方町並みの趣は大きく変わることになる。町屋の再生には職人が必要になるが、これについては技術を受け継いできた地元の名工「村上大工」達が施工する。村上市が財政難で身動きできない中、2004年春「私たちの町は私達市民の力で再生する」と市民の熱き思いが結集しこのプロジェクトが動き出した。年間1000万円を目標とする財源は会員の会費によって作られるシステム。10年計画で行う1億円プロジェクトである。村上に縁のある全国の人々に呼びかけ会員の募集が開始された。

「近代化反対」に端を発し、「町屋の公開」、「町屋の人形さま巡り」、「町屋の屏風まつり」といった町屋に価値付けをする町おこしが始まった。それが「黒堀プロジェクト」という町づくり市民運動に発展、そして今スケールも大きくまさに町を市民の力で作って変えていこうという「町屋再生プロジェクト」が動き出したのである。

### 3 活動の成果

#### (1) 外観再生第1号が完成

2004年6月、町屋の外観再生第1号が完成した。中央商店街にある老舗のお菓子屋「早撰堂」が大正時代の店の姿に再生された。アーケードとサッシが



再生の様子 1  
アーケードが取り外された

外され、時代を感じさせる金文字の大看板、古い瓦、格子、木製硝子戸が取り付けられた。期待を上回る素晴らしい出来栄に、メンバー一同、驚き胸が熱くなった。市民で基金を作り、その基金から一軒最大80万円までの補助金を出し、町屋の外観を昔ながらの風情ある姿に再生させるのだが、全国でも例のない市民プロジェクトといわれている。外観に補助金を出す、内装についての補助制度はない。しかしせっかくだからと結局自前でこのお店は内装まで改装してしまった。その結果注目される店の売り上げだが「人形さま巡り」や「屏風まつり」の繁忙期は輪をかけて売り上げが伸び、更に普段の月も売り上げが確実に増えたとのことで、家族全員思い切っけて町屋を再生したことに非情に満足していただいているようである。ところで再生第1号が完成した6月はまだ基金はまったく集まっていなかった。正確には集めていなかったのだが、実行してしまったのである。これはまずは一軒実際に改装することが市民に何をやろうとしているのかを目に見える形で示すことが大切であると考えたからであるが、同時にお金も集まらないうちに実行することは、引き返すことができない状況に追い込み、メンバーが覚悟を決めたという決意表明でもあった。

#### (2) 外観再生2号は2005年5月着工

再生第2号は2005年5月に着工する。今度は老舗の山上染物店である。アーケードこそ架かっていないが角地にある同店は江戸時代後期の町屋であるが、そのほとんどがサッシとトタンに覆われている。少し手直しすれば途端に素晴らしい町屋に再生される建物である。完成が楽しみな店である。そしてただ今再生第3号を計画中である。

#### (3) 会員の特典と、瀬波温泉の協力

入会者の年会費(一口3000円)で基金を作っているが、入会者の会員の特典が素晴らしい。市内にある瀬波温泉の温泉ホテルで、全国的にも人気ランキングの上位に顔を出している「大観荘」「汐美荘」で驚



再生の様子 2  
瓦、格子、木製硝子戸が取り付けられた

くほど格安での宿泊ができること。更に市内約30店舗で使える一割引券などの魅力的な特典がある。特筆すべきは瀬波温泉の実力者がこのプロジェクトを成功させるため大きな力となってくれたことである。それまで同じ村上市内にありながら瀬波温泉と城下町の村上はなかなかプライドが高く協力し合うことがなかった。それが今は、温泉と城下町の魅力が支えあい生かしあってこそ双方が繁栄していけるとの認識を持ち、お互いが協力し合おうという意識が生まれたのである。これはこのプロジェクトを大きく推進するばかりではなく、行政をも動かし今後の村上市の発展に大きな力となるものである。本プロジェクトを行うことで得ることができた大きな収穫でもある。

#### (4)「村上大工 匠の会」の結成

地元の大工は古くから「村上大工」と呼ばれ、その昔、技術の高さを他県にまで轟かせていた。町屋の再生には専門の職人が必要となるが、これについてはこの技術を受け継ぎ地元の職人でしかできない伝統家屋を造り伝えて行こうという志をもった市民の建築集団「村上大工 匠の会（大工を中心として建築士、建具士、左官士などで構成）」が施工する。

この背景には全国どこにでもある大手ハウスメーカーの進出があった。大手の進出により、村上の町屋建築の仕事はどんどん減ってきていた。一方、村上ならではの町屋の家屋を造り、残し、村上ならではの町屋を伝えていくことは、実は大手ハウスメーカーが入って来れない分野であり、町屋再生の事業を行うことは地元の大工が力を発揮でき、仕事の機会を増やすことにもなる。逆に町屋を手がける仕事なくなるといことは伝統の技も絶やしてしまうことになる。町屋再生には伝統の技を使い、技を伝承していくという大切な意味がある。

このような背景の中、町屋再生プロジェクトが発足したのをきっかけに「村上大工 匠の会」が結成された。町づくりへの協力という意味で通常の価格より1割引いた値段で仕事をしてくれる。町屋を



外観だけでなく内装も改装された店内

再生していくには町屋を所有する市民の町屋を大切に残し生かそうという意識が重要であるが、同時に仕事をする大工の意識も非常に大切なことである。いくら仕事を依頼する家主が伝統建築を望んでも、大工が現代工法の家を勧めたら町屋は消えていくからである。したがって伝統建築を残し伝えようという意識の高い大工達が増えることが重要なのである。今回の「村上大工 匠の会」の結成は地元の大工達への刺激となり意味のあることだったと思う。

#### 4 まとめとして - 今後の取組み

2004年3月に発足した「町屋再生プロジェクト」は現在約800名の会員の入会があり、2004年の11月から本格的に募集を始めた基金は5ヶ月で、約400万円に達した。現在も会員拡大に取り組んでおり、更に増える見込みである。年間1000万円の基金の目標にはまだまだだが、500万円は確実に超える。仮に500万の基金であっても町屋再生は十分効果を発揮し村上の町は間違いなく再生され、動き出す。何の保証もない中、大きな目標を掲げて始まったこのプロジェクトに大きな手ごたえを感じている。

市や県が単に見守るとい中、今や村上は国が注目し始めて、国での評価を高くした。この夏に正式に公表される国土交通省の新規の事業「観光ルネサンス事業」は構想の段階から村上で始まった町屋の再生事業をひとつのモデルケースとして参考にされ進められたと聞いた。そして国からも応募の打診が来るほどまでに評価されるようになった。原点を振り返れば、近代化反対を唱え、市や商工会議所、商店街からの非難を受けてスタートした一連の村上の町おこし活動と町づくり活動であったが、今や嬉しいばかりの評価を受けるようになった。しかし肝心なのは、これからこのプロジェクトが更に市民の目に見える形で、町屋の外観再生を進め、町を更に活性化させ、村上をいかに繁栄させるかである。成果を見せていくことが、大勢の人を巻き込み、協力を得てここまで来たわれわれプロジェクトの責任であ



「町屋の外観再生プロジェクト」のパンフレット

るのだ。この10年間でどこまで町屋を再生し、町をどこまで変えることができるか、良いスタートはきったとはいえ、これからがまさに勝負どころである。

最後にこれからの時代、行政や会議所に任せきりではいけない。本当にいい町を作るには、市民自らが考え意見をだすことは勿論、汗をかき、お金を出してもてやるという心意気こそが必要なのである。誰のためでもない、自分達の町は自分達に責任がある。子や孫に誇れる町を残すには、今いるわれわれこそが頑張らなくてはならない。村上では近代化の問題も最終的には解決されない中ではあるが、個性あふれ、繁栄し活気があり、村上の町を作るために、これからも一生懸命取り組んで行きたい。



大正時代の早撰堂



改装後の早撰堂